



日刊 動力労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

96.2.16 No. 4343.



「米軍人による少女暴行事件を糾弾し、地位協定の見直しを要求する県民総決起大会」は、沖縄県民の怒りが1つになり、8万5千人の大抗議集会となった。(1995年10月21日、宜野湾市・海浜公園)

沖縄の怒り

人々をあたたくむかえいれるエメラルドグリーン海、「観光の島・沖縄」。

もう一つの、「基地の島・沖縄」という現実。「沖縄戦から五〇年」、一九七二年五月五日の「本土復帰から二三年」がすぎても、日本にある米軍基地の七五%が沖縄に集中し、沖縄本島の約二〇%が基地という、米占領下と何ら変わらない沖縄の現実がある。

軍用地強制使用許すな



安保・沖縄争の爆発がここ

日米安保と米軍基地の存在によって、生命と生活がおびやかされる事件・事故がひんぱんにおきている。また、二一世紀にまで及ぶ、日米両帝国主義の軍用地強制使用は、沖縄の未来を永遠にとざそうとしている。

昨年一〇月二一日、沖縄では駐留米兵による少女暴行事件をきっかけに、「島ぐるみ」の闘いとして、七一年沖縄返還闘争以来最大の八万五千人集会が開催され、基地の島として戦後一貫して、その犠牲を強制されてきた歴史への激しい怒りが爆発

した。

今年三月三一日、読谷村の楚辺の米海軍通信所(通称・象のオリ)内にある、知花昌一さんの土地が軍用地使用期限切れを迎える。

一九八七年の沖縄国体で「日の丸」を焼き、沖縄戦の住民被害の調査活動などでも知られる反戦地主の知花さんの土地をめぐる攻防は、来年九七年五月一四日の軍用地大量期限切れをめぐる闘いの始まりとなる。

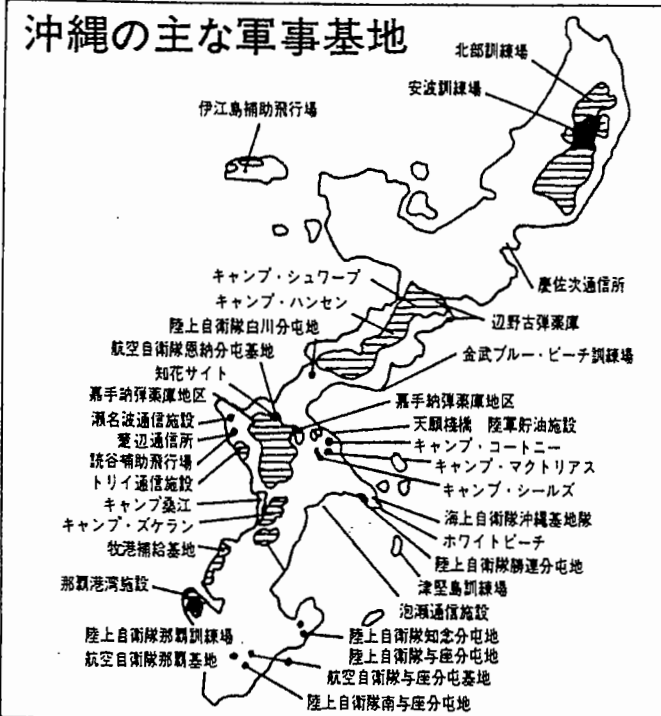
現地等々

橋本政権は、施政方針演説で「(日米安保は)アジア・太平洋地域の平和と繁栄に不可欠であり、堅持する」(沖縄基地問題は)日米安保との調和をはかる」と演説し、あくまで安保を堅持し、基地を固定化する宣言をした。また四月クリントン来日時、日米首脳会談を行い、「安保再定義」を確認し、物品・役務融通協定(ACSA・アクサ)を通常国会で成立させ、

憲法で禁じられた「集団的自衛権の行使」に踏み切ろうとしている。「安保再定義」は、そのための日米安保再強化宣言であり、沖縄を朝鮮侵略戦争の最前線攻撃拠点として徹底的にうち固めようとするものだ。

昨年一〇月の島ぐるみ決起をもって始まった安保・沖縄闘争は、日本・アメリカ、アメリカ・アジア、日本・アジアという、アジアをとったところが生き残ると言われる中で、帝国主義の世界支配の根幹を揺るがす、歴史的な意味をもった闘いだ。

「大失業と戦争の時代」と対決する労働運動の真価をかけ、軍用地強制使用をめぐる四・一闘争を突破口に、今こそ、六〇年、七〇年をこえる第三次安保・沖縄闘争の大爆発をまきこそう。動力千葉沖縄派遣団の結成・カンパ闘争の成功をかちとろう!



派遣団大募集

出発 3/29 FRI.
帰着 4/1 MON.